



平成28年2月29日

各位

上場会社名                   パイプドHD株式会社  
代表者名                    代表取締役社長 佐谷宣昭  
                                  (コード番号 3919)  
問合せ先責任者            取締役                    大屋重幸  
                                  (TEL 03-6744-8039)

## 特別損失の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催された取締役会において、下記の特別損失を計上すること、及び平成27年3月31日に公表した平成28年2月期（自平成27年3月1日至平成28年2月29日）の連結業績予想を修正することを決定しましたので、お知らせ致します。

記

### 1. 特別損失の計上及び税効果会計の処理

当社連結子会社であるペーパーレススタジオジャパン株式会社（事業内容：BIM建築情報プラットフォーム「ArchiSymphony」の提供及びBIMコンサルティング等）は、今期から営業黒字化による連結業績への貢献を見込んでおりましたが、今後の需要増加に備えるために増員した制作人員のコストを吸収するだけの収益を上げるまでには至らず、約40百万円の営業赤字となる見通しです。同社の実績が当初の利益計画から乖離したため、連結会計上ののれんを減損し、11百万円の特別損失を計上致します。

また、当社連結子会社である株式会社パイプドビッツが平成24年3月1日付で譲り受けた「美容師名鑑プロジェクト事業」については、平成28年3月1日付で新会社設立を予定している株式会社美歴において、電子カルテサービスの準備が進展し、収益化が期待できる状況に至ったことから、これに注力するために、美容師名鑑プロジェクトの進展を当面の間見合わせるようになりましたので、同事業に関するのれんの一時償却5百万円を特別損失として計上致します。

上記二件の資産の評価損として、連結会計上で特別損失16百万円を計上し、これに伴う繰延税金資産8百万円を税効果会計上で取り崩す処理を行います。

## 2. 平成 28 年 2 月期の連結業績予想の修正（平成 27 年 3 月 31 日発表）

（自 平成 27 年 3 月 1 日 至 平成 28 年 2 月 29 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益	期末配当
前回発表予想 (A)	百万円 4,000	百万円 820	百万円 820	百万円 490	円 銭 60.76	円 銭 10.00
今回修正予想 (B)	3,920	580	560	240	30.67	10.00
増減額 (B-A)	△80	△240	△260	△250	△30.09	-
増減率 (%)	△2.0	△29.2	△31.7	△51.0	△49.5	-
(ご参考)前期実績 (平成27年2月期)	3,173	625	634	372	46.94	9.00

（連結業績予想修正の理由）

当社グループは、中期経営計画の達成に向けて、二年目に当たる今期を助走期間と位置付け、人材採用と新規事業への投資を積極的に行って参りましたが、直近の事業及び業績の進捗状況と上記「1. 特別損失の計上及び税効果会計の処理」の内容を踏まえ、当社グループの今期の連結業績予想を上表の通り修正致します。

事業セグメント別の売上高については、情報資産プラットフォーム事業で当初の想定より約 134 百万円下回る見込です。これは主に今期新設した「株式会社パブリカ」による 2 百万円の増収がありましたが、「株式会社パイプドビッツ」で 116 百万円及び「株式会社アズベイス」で 20 百万円が当初の想定を下回ったことによるものです。広告事業はほぼ当初の想定通りの進捗となりました。ソリューション事業は、当初の想定より約 54 百万円上回る見込です。これは主に「ペーパーレススタジオジャパン株式会社」で 6 百万円が当初の想定を下回りましたが、今期新設した「株式会社ウェアハート」による増収 60 百万円があったことによるものです。

事業セグメント別の利益については、情報資産プラットフォーム事業で当初の想定より約 111 百万円下回る見込です。これは主に「株式会社パイプドビッツ」で 98 百万円が当初の想定を下回ったこと、及び「株式会社パブリカ」の先行投資 13 百万円が発生したことによるものです。広告事業はほぼ当初の想定どおりの進捗となりました。ソリューション事業は、当初の想定より約 129 百万円下回る見込です。これは主に今期に黒字化を見込んでいた「ペーパーレススタジオジャパン株式会社」が 40 百万の営業赤字となる見込であること、及び「株式会社ウェアハート」の先行投資 80 百万円が発生したことによるものです。

当社の連結業績を構成する各事業会社の事業及び業績の進捗状況は次の通りです。

「株式会社パイプドビッツ」は、マイナンバー需要等を背景に既存事業は堅調でしたが、今期から収益貢献を想定していたスプリンクラー社サービスの販売の進捗が遅れるなど、想定を下回る要因がありました。スプリンクラー社サービスについては、第 4 四半期より新規契約の

受注が始まっていることから、来期以降の収益貢献が期待されます。

「ペーパーレススタジオジャパン株式会社」は、今期からの黒字化を見込んでおりましたが、今後の需要増加に備えるために増員した制作人員の増加に伴うコストを吸収するだけの収益を上げるまでに想定を超える時間を要しました。足下では組織の稼働率が高まっており、また、このところの BIM の需要拡大の顕在化や、持株会社による営業支援を強化したことなどから、来期以降の利益貢献が期待されます。

「株式会社アズベイス」は、上期の業績は堅調に推移したものの、システムの安定稼働と今後の成長のための営業及び開発体制の整備に課題があり、下期の業績が想定を下回りました。昨年末より持株会社の支援による体制強化を進めており、来期には持ち直しが期待されます。

「株式会社パブリカ」は、今期より自治体広報紙の電子化事業を開始しております。掲載自治体数は順調に増加し、全自治体の 1 割を超える約 200 自治体の広報紙を取り扱うに至っておりますが、マーケティングや開発リソースの確保に手間取ったことから、有償サービスの開始時期が来期にずれ込みました。来期には収益貢献が期待されます。

「株式会社ウェアハート」は、講談社との提携により下期から本格的に EC 事業「NET ViVi コーディネートコレクション」を開始しました。早期に集客数 50 万人を超える会員組織と月商 4 千万円の流通額の達成を目指す過程で、約 80 百万円の先行投資が発生しております。雑誌と EC の連携企画や仕入コストの見直し等により、来期には利益貢献が期待されます。

「株式会社カレン」は、雇用体系の変更やオフィス移転などによって一時的な費用が嵩み、第 3 四半期までの業績が想定を下回りましたが、コスト構造の健全化とグループ間の営業協力の進展により収益構造が改善しており、来期以降の利益貢献が期待されます。

なお、今期（平成 28 年 2 月期）の期末配当予想については、今回の業績予想の修正が成長投資に伴う一時的な減益であり、また当社グループを取り巻く事業環境は引続き好調であること、及びこれまで実施した先行投資を通じて事業基盤も強化されつつあり、上述の通り来期以降の業績には好影響が期待できること等に鑑みて、現状の判断としてはこれを変更せず当初の計画通り実施する予定でありますが、今後の当社の状況に著しい変化等が生じ、この方針を変更する必要が出た場合には速やかに開示致します。

以上